

登録コード:MH313200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	臨床物理療法【20M以降】 Clinical Electrophysical Agents			
担当教員	小宅 一彰			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/2年		後期	火曜・1 時限 火曜・2 時限
単位数、講義室	2 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		保健・医療・福祉の現場において、理学療法士として自己の責任を自覚し物理療法を活用することにより、機能障害や活動制限の回復を支援するチームの一員として協働活動に参加できる。	
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		物理療法として用いられる物理エネルギーの特性および物理刺激に対する生体反応を理解するとともに、物理療法効果を検証するための信頼性のある手法を考案できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な課題に対して、理学療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探究心と、対象者の抱える課題に応じた安全で効果的な物理療法介入の実施に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業は、講義と演習で学習していきます。具体的には、1年次後期に履修した「物理療法基礎論」の知識を基盤とし、より専門的・臨床的な内容となります。内容は、実験を通して物理療法の実施方法、物理刺激による生体反応を学んでいきます。すなわち、1年次後期の「物理療法基礎論」、2年次前期の「理学療法評価法」および「理学療法評価法」の発展科目に位置付けられ、2年次後期の「理学療法治療法」と相補的に学んでいきます。また、3年次前期の各種疾患別理学療法および理学療法研究法の前提科目となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を活かして演習を行います。			
授業計画	第1回 (9月29日) オリエンテーション・演習課題の検討 第2回 (10月6日) 課題となる物理療法に関する知識の整理・仮説立案 第3回 (10月13日) 統計解析ソフトを使ったデータ解析 第4回 (10月20日) 実験計画立案 第5回 (10月27日) 発表スライド・実験マニュアルの作成 第6回 (11月10日) 最新の物理療法の経験 第7回 (11月17日) 【グループ発表】実験計画発表会 第8回 (11月24日) 実験計画・実験マニュアルの修正 第9回 (12月1日) データ収集 第10回 (12月8日) データ収集 第11回 (12月15日) データ収集 第12回 (12月22日) データ収集 第13回 (1月5日) データ解析 第14回 (1月12日) 発表スライドの作成 第15回 (1月19日) 【グループ発表】実験結果発表会、【授業アンケートの実施】 第16回 (1月26日) 【期末試験】			
授業の進め方	研究を想定したエビデンスの探求、仮説立案、実験計画の立案、計画に従った評価と介入、データ解析、客観的データと文献に基づく考察を通して、物理療法の治療体型を系統的に学びます。演習はグループワークとし、複数人で協力しながら実験課題を行い発表します。			
テキスト、教材、参考書	教科書：Crosslink理学療法学テキスト物理療法学（吉田英樹編：MEDICAL VIEW） 1年生で購入済み			
成績評価の方法	実験計画発表会（11月17日）、実験結果発表会(1月19日)、期末試験(1月26日)の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、実験計画発表会40%、実験結果発表会40%、期末試験20%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。 実験計画発表会では、エビデンスに基づいて論理的に仮説を立てることができるか、物理療法の効果を捉える信頼性の高い評価方法を立案できるか、介入方法にデータの信頼性を高めるための工夫をしているか、統計解析手法の選択は妥当であるか等の観点から評価します。実験結果発表会では、課題に関連する物理療法の特徴を説明できるか、第3者が再現できるよう評価方法や介入方法を説明できるか、統計解析を用いてデータを客観的に説明できるか、データと文献に基づき結果を論理的に解釈できるか等の観点から評価します。期末試験では、安全かつ効果的に物理療法を提供するために必要な知識および知的技能について評価します。			
成績評価の基準	十分な指導の下に課題を達成できれば「水準にある」、能動的な自己学習によりわずかな			

成績評価の基準	指導で課題を達成できれば「やや上にある」、能動的な自己学習によりわずかな指導で要求以上の成果を上げれば「かなり上にある」、能動的な自己学習により卒業研究に相当する成果を上げれば「卓越している」と評価します。 「卓越している」：秀 「かなり上にある」：優 「やや上にある」：良 「水準にある」：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回授業の終わりに次回の演習課題について説明します。グループで予習し説明できるよう準備すること。 【事後学習について】 研究計画やデータ解釈のために必要な学術的エビデンスを収集するとともに、課題遂行に必要な知識を習得できるようグループ学習に取り組んでください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（4時間×15回）＋自己学習時間30時間（2時間×15回）＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	3年生前期から始まる卒業研究に活かせるよう、研究を想定した演習を通して物理療法の実施方法や効果判定について学習します。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください） 保健学科南校舎4階 小宅研究室